

秋風にかかし舞う



ふくろう新聞

<発行>
 特別養護老人ホーム
 淡路ふくろうの郷
 広報委員会

洲本市中川原町
 中川原28番地1
 TEL:0799-25-8550
 FAX:0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

▲ かかしと一緒に記念撮影。この日はまだ少々、夏の日差しでした。



▲ 地域のみなさんと職員とかかしと。



8月29日(日)、今年も地域交流会のみなさんと入所者で「ふくろうかかし」を作りました。今回で3回目。みなさん、もうお手の物です。手際よく、個性豊かなかかしを作り上げていきます。いただいた古着や古布はいつも本当に重宝しています。

今、10体のかかしは、爽やかな秋風を体に受け、クルクル楽しそうに眼下に広がった稲穂の景色を眺めています。かかし「ふくろう祭りで会いましょう」

「暑い！異常だ！水分補給だ！クーラーだ！」これらの言葉を例年よりも絶対によく発した自信のある今夏です。みなさんはいかががでしたか？

すね。先日、淡路ふくろうの郷職員互助会ではブドウ狩りに行ってきました。

暑いながらに秋は確実にやって来ているのですね。

受注の屏風が完成しました☆



制作の様子

愛知県の社会福祉法人不二福祉事業協会様よりご注文いただいた屏風が完成しました。8月下旬の新しい施設オープンに間に合うよう、ボランティアさんのご指導をいただきながら、入所者みなで一生懸命作りしました。

注文いただいた経緯は、本紙3ページをご覧ください。



無事完成。ホッと一息、記念写真

第19回聴障者精神保健研究集会

東京都港区立障害保険福祉センター<ヒューマンぱらど>



8月28～29日の1泊2日で、竹邊さん・北川さん・西田さん・富永さんの入所者4名と職員3名で東京へ講演に行ってきました。

今回、東京に行くことになった4名は、ふくろうの郷に来るまでは、家庭・病院・社会から抑圧されて、自分で生きてこられた方々です。

ですので、東京に行くのも初めて、飛行機に乗るのも初めて、私たちが当たり前に経験してきたことを、この4名は圧倒的に、理不尽に経験していません。それも自らの意志ではなく、他者(社会)によって奪われました。

空港に到着して飛行機を指差し「あれに乗るのか?」「でかいな!」。飛行機に乗ってからは、窓の外の風景に釘付け。「あれどこ?」「もう東京?」と初体験を満喫。生き生きとした表情をされていました。

東京到着1日目は、今年の7月に取材のため4日間ふくろうの郷に滞在された毎日新聞記者・萩尾さんとホテルで再会。「久しぶり!」と握手を交わし、喫茶店でお茶を飲みながら交流を楽しみました。

2日目の午前中は、これも皆さん初体験、東京タワーに行き、「あれ病院や」「淡路島は見えへんな」と景色を楽しまれたり、お土産を買われたりしました。

その後会場入りし、いざ講演。テーマは「へとも生きる」を考えるです。4名の方々それぞれに自分郷でのことを語っていただきました。

「長年、人間らしい生活を送れなかった」「学校に通うことができなかった」「親しい友人を作ることができなかった」など、4名の方々からはいろいろな話が飛び出しました。

ですが、これはこの4名に限ったことではありません。ふくろうの郷には同じような境遇の方が他にも大勢おられますし、全国各地にもまだまだいろいろあるはずですよ。そのような方々が我々のもとに来られるのを待つのではなく、積極的にこちらから働きかけをし、支援していかねばならない。そ



▲東京タワーの下で。

して、今回の4名の方々のように豊かな第二の青春、第二の人生を送れるよう寄り添うためには我々はその方たちとどう向き合い、どう共に生きていくのか?を考えて欲しいし、お互いを支えていきましょう、と講演を締めくくりました。

講演終了後、すぐ帰路に。日差しの強い2日間で、体調の心配をしていましたが、日差しよりも皆さんの好奇心のほうが強かったようです。

我々職員にとつても充実した2日間となりました。

(・・濱田)



▲時間の都合でスカイツリーには行けませんでした。東京タワーから見えました。

海水浴

今年も炬口海岸に海水浴に出かけました。

のんびり潮風にあたる人、恐る恐る波打ち際に近寄り、足に波を受ける人、浜辺でスイカ割りをする人、もちろん

バシヤバシヤ泳ぐ人。みなさん、思いの時間を過ごされました。

▲木陰でひと休み



▲わ～、冷たい!



バシヤバシヤ



海は広いな・・・

愛知県(社福)不二福祉事業協会理事長 青山さんよりお礼の文章をいただきました

淡路ふくろうの郷のみなさまへ
すばらしい鶴の屏風
ありがとうございます

5億円も寄付を集めてつくられたすごい所が淡路島にあると本で読み、昨年の7月28日に新神戸より高速バスに乗って淡路ふくろうの郷に行きました。

私その他にもう一人、千賀君と共に2人でふくろうの郷を大矢施設長、手話通訳の森岡さん、それと元気な入所者の竹邊さんの中に見学させていただきました。

途中、作業場の屏風に目が止まりました。確かもう一枚、会議室にもやや大きめのものがありません。

ちょうど私共の蒲郡で来年の夏にオープンする小さな20人の老人ホームの記念に譲っていただけないか大矢施設長にお願したところ、新たに作っていただくことになり、先月の8月20日の竣工式正面に

飾られました。今、二羽の鶴は、一

羽ずつにして、二ヶ所でそれぞれ和室に飾られています。行事の時に一つに合体します。二つのユニットの名前が「つる」「かめ」です。その小さな老人ホームの名前は「ぬくもりの家」です。木造耐火構造で、木のぬくもりがあり、地震に強く、夏涼しく、冬あたたかい、日本で一番いい、小さな家です。

ふくろうの郷のみなさん、すばらしい屏風をつくっていただいて、ありがとうございます。また愛知へフグを食べに来てください。お待ちしています。

二〇一〇年九月四日
青山傳重郎



▲ぬくもりの家の左側に飾られた青山さん作の鶴と亀の屏風
淡路ふくろうの郷の理事長 青山傳重郎

メッセージ 地域と共に歩む 評議員：平野俊和

施設運営の基本方針に「地域の人々と共に地域福祉の創造と発展をめざす」と謳われています。

思えば、平成17年4月10日の中川原地域の春祭りの時に建設中の敷地へ行き、赤い「ふとんだんじり」の練りこみで祝福したのが交流のスタートでした。出迎えられた故前理事長・池尻重義氏の満面の笑顔が印象深く思い出されます。

その後、毎年、春祭りと一体化し、だんじり・獅子舞等、賑やかに交流を深めて6年になります。

地域住民にとって、聴覚障害者の方々と日常生活において接する機会が殆ど無かった状況で、入所のろう者の方と言葉を交わせない戸惑いを感じながらも、顔を覚え、挨拶をし、身振り手振りの会話で、親近感を覚え、人と

人との温もりを感じながらコミュニケーションが始まりました。

開所以来、町内会、老人会、祭礼団、民生委員会、市原青空市の会、民謡舞踊の会、厚浜音頭保存会、ボランティアの方々、そして何より中川原地域交流会のみなさんの協力を得て、秋の「ふくろう・ふれ愛まつり」を筆頭に数々のイベントを行なってきました。

毎月発行の「ふくろう新聞」の中の「地域を語る」に順次、記事の執筆もいただいています。

入所のみなさんは、地域の方が開放くださったコスモス畑に出かけたり、時には、地域の方が自慢の手作り野菜や花、手芸作品をふくろうの郷に持参して下さったり、交流の輪は広がっています。

開所以来、三根理事



▲今年4月の春祭りにて(写真中央、平野さん)

長・大矢施設長・職員が一丸となって施設運営に努力を行い、そして、ふくろうの郷を献身的に支えてくださっている多くのみなさんのお力添えで、健全会計を維持できています。ありがとうございます。

将来においても、入所者にとって居心地の良い、心安らぐ施設であることをお願いと共に、地域にとっても福祉の拠点として共存し、更に素晴らしい「ふくろうの郷」として発展することを願ってやみません。

地域を語る

第21回 田園の風物誌

「案山子についてIII」

北岡肇

今年も実りの秋となり、工夫をこらしたユニークな案山子が見られ、道行く人たちの目をなごませていきます。

前年の今月号で案山子について「久延毘古之神」(山田之曾富騰とも言う、この神は足行かずといえども、ことごとく天下のことを知る神なり)と説明しています。今回は、なぜかかしと言われるようになったのか語源について説明しましょう。

いろいろな説がありますが、昔は鳥獣の肉を焙(トブ)って串に刺して田畑の周囲に立てておくと、鳥獣がその匂いを嗅いで(かかせ)直感から「田

畑に入ったならやられるぞ・」と怖がり近づかなくなりしました。これをヤキカガセと言ひ、また、竹やワラなどで人形の形を作り、蓑笠(ミサガサ)を付け、弓矢を持たせて鳥獣を嚇(オド)かす姿をタチカガセと言っていました。これらの言葉がだんだん変化してかかしと言われるようになったそうです。

今年も8月29日、大勢の皆さんと一緒にかかしを作りました。10月24日の「第5回ふくろう・ふれ愛まつり」には案山子と共に皆さんのご来場をお待ちしています。

※参考文献 耕学清話より



▲今年も個性あふれるふくろうかかし。

あなたも一緒に働きませんか？ ～2011年度 職員募集～

一般正規職員

採用日:2011年4月1日

応募資格:年齢概ね35歳まで

(有資格者は考慮)

選考方法:書類(履歴書、小論文「私のめざす法人理念の具体化と自己実現」1000字以内) 締切 2010年9月30日必着

第一次試験 2010年10月30日(土)

第二次試験 2010年11月13日(土)

決定通知は11月下旬、
本人宛郵送で通知
(担当:八木)

その他詳細は法人ホームページをご覧くださいか
(TOPページ)→(職員募集の案内)、
淡路ふくろうの郷にお問い合わせください。



おのころの家心の俳句

おのころの 車待ちし 樹下涼し (森はつみ作)

毎日、送迎を利用されています。待ち合わせの時間にはちよつとでも早く行くよう心掛けてはいますが、暑い中、待っていて下さいます。少しでも涼しい所だと、街路樹の下で待たれている様子がうかがわれます。

地域活動支援センターおのころの家の通所者さんが作られた俳句をご紹介します。

第10回ふくろう学習会 「障害者自立支援法について」 9/18(土) 15:00～ 詳細は法人HP

障害者自立支援法兵庫訴訟の原告団であり、兵庫障害者連絡協議会事務局長でもある井上義治さんをお招きし、講演いただきます。

障害者自立支援法の違憲性とは？障害者が置かれている現状とは？理想の制度とは？皆で考えましょう。

第14回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(全聴福研)

全聴福研とは、全国5つの聴覚障害者関係の社会福祉法人が、毎年持ち回りで開催している大規模な研究集会です。みなさんのたくさんのご参加、お待ちしております。みんなで交流、議論しましょう！
要員(ボランティア)の募集も同時に行なっています。こちらもよろしくお願いします。

- 日時 平成22年11月6日(土)～平成22年11月7日(日)
- 場所 神戸市勤労会館(JR三ノ宮・各私鉄三宮駅から徒歩5分)
- 参加費 5000円 ●申込締切 平成22年9月30日 (担当:裏井)

詳細は
法人HP